２４年４月７日

「スポーツは楽しい」大学時代に衝撃

林　　但

4 月 6 日（土）の朝日新聞を読んでいたら上記のタイトルが目に飛び込んできた。よく読んでいくと、昨年 10 月に神奈川県体育センターで受講した講座講師の渋倉崇行桐蔭横浜大学教授の記事である。

1989 年夏、新潟南高の投手として全国高校野球選手権に出場したが、「野球をしていて楽しいと思ったことはほとんどありませんでした。
そして、当時はそれが当たり前で、野球というものは蹴られ、殴られ、理不尽なことに耐えながら勝利を目指すものだ、という価値観が私にもありました」　その後大学に進まれましたが、体の具合も満足ではなく 2 年の時に退部されたそうです。そんな時、**体育学科の授業で「スポーツは楽しいものだ」という教授の言葉を聞き、衝撃を受けられたようです。そして自分のやってきたことを確かめようと勉強に打ち込まれた**との事。渋倉さんの講義は 10 数年前に神奈川県の子供のコーディネーター養成講座を受けたこと思い起こしました。

今回の記事ではスポーツで暴力の起こる背景、高校野球特有の背景などについて分析・意見を述べておられる。指導者に求められるのは、「**自立型選手の育成するコーチング**」で、やらされるのではなく、**やる気にさせる働きかけ**が大切で、動きも取り組み方が良くなるとの事。選手が主体的の取り組む・行動する機会を大切にする。そうしたコーチングをしたいとの事。

横須賀市では今年度から児童の第２回秋山翔吾カップ（第 65 回児童ソフトボール大会）が暑さ対策の一環で 4 月に時期をずらして行われます。上記は高校野球の視点での記事であるが、この秋山翔吾カップでも昨年度見ていると、暴言や立ち振る舞い方にやや首をひねるような場面が少し見受けられたように思います。一緒に研修を受けませんかと話をした方がありました。児童の段階では、スポーツの楽しさや面白さ、友達との関係性などを指導者の方には伝えて欲しいと私は考えています。

日本大学文理学部体育学科卒業，新潟大学大学院教育学研究科修了，名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士（後期）課程修了．博士（心理学）．新潟工科大学助手，新潟県立大学准教授等を経て，**現在は桐蔭横浜大学大学院スポーツ科学研究科教授，一般社団法人スポーツフォーキッズジャパン代表．専門はスポーツ心理学．公益財団法人日本スポーツ協会共通科目コーチデベロッパー．日本スポーツ少年団指導育成部会部会員．日本スポーツ少年団登録者再教育プログラム審査会委員．**全日本軟式野球連盟指導部会外部委員．

出典：一般社団法人スポーツフォーキッズジャパン